

死生学 専攻 _____ 領域（ 博士前期 / 修士・博士後期・前後期共通 ）

試験科目： 英 語

試験時間：（ 90 ）分

注意事項

1. 解答用紙に、必ず、受験番号および氏名を記入すること。
2. 辞書を使用することはできるが、電子辞書等は不可である。
3. 第1問と第2問の解答は、それぞれ別々の解答用紙に記入すること。
4. 問題用紙および書き損じの解答用紙・未使用の解答用紙は持ち帰ってはならない。

第1問 (英語)

人間が未来を予測するきっかけのひとつに神秘的な体験があると主張する次の英文を読んで、下線部を訳しなさい。訳出にあたっては、(1)～(4)の記号に続いて訳文を記すことで、どの箇所を訳しているかがわかるように明示すること。また、日本語として意味の通る文章にすること。

(1) Simulating and evaluating future events are ubiquitous mental processes, and it is this ability that draws human beings into the future. We are doing research into an unconventional, even outlandish, approach to prospecting: a science of being called into the future. Feeling or believing that one has been called by the future is not an uncommon human experience. Moses's Burning Bush is the paradigm case. But many of the rest of us have had such experiences. (2) When Gallup asked respondents if they have had a "profound religious experience or awakening that changed the direction" of their life, 41 percent of Americans agreed that the statement "completely applies to them." Thirty to forty percent of people feel they have a calling. I, it should be said, number myself among them. Even without a numinous experiences, many successful people across history have claimed that they were "Men of Destiny." Further, these experiences can be life changing and it is not uncommon for people to reorient their entire lives in the wake of one. (3) The secular approach is that numinous experiences are merely efflorescent products of a Darwinian brain. Evolutionary theorists see the hand of group selection at work here. Religious inspiration, undaunted high purpose, magnificent undertakings' bind, and unshakeable convictions tune and galvanize the group. (4) Dreams, fantasy, and mental intrusions outside the control of consciousness may be some of the mechanisms that subserve calling. Hence their presence and the brain mechanisms that subserve them are selected for. The ground of these experiences, however, is a benign illusion.

Moses's Burning Bush : 旧約聖書『創世記』にある、モーゼが神と出会い十戒を授けられる場面

Numinous experience : 神秘的体験

Gallup : 米国の世論調査などを行う企業

Darwinian brain : 進化選択的脳。脳の機能や発達を、特定のニューロン集団が選択されてきた過程の結果として説明する理論に基づく

第2問 (英語)

次の文章を読んで、全文を訳しなさい。その際、代名詞が指すものが何であるか明示しながら、意味の通る日本語にすること。

In most parts of the world and for an extended period the proponents of palliative care, on the one hand, and of euthanasia or assisted dying, on the other, have been locked in disagreement. The mid-twentieth century founders of the modern approach to hospice and palliative care were almost universally opposed to euthanasia on both moral and strategic grounds, and this stance has largely continued over time. First, the palliative care protagonists argue that it is not the role of medicine to intervene in order to end life. Second, and over time, they maintain that where comprehensive palliative care is available, then requests for an assisted death will be unlikely to occur or can be ameliorated. ...

By contrast, the arguments in favor of assisted dying tend to be based on secular principles that often include a 'rights' element. First among these is autonomy, the principle of 'self-authorship' of one's life, and of one's death. Second is the more neo-liberal connotation of 'choice' within the healthcare system, which should include not only treatment and care options but also the determination of when, how and where we die. Beyond these two principles, supporters of assisted dying also argue pragmatically that palliative care cannot be effective in every case and is not a universal solution to all end of life care needs.

死生学 専攻 _____ 領域（ 博士前期 / 修士・博士後期・前後期共通 ）

試験科目： 専 門

試験時間：（ 90 ）分

注意事項

1. 解答用紙に、必ず、受験番号および氏名を記入すること。
2. 6つの問題のうちから、任意の2つを選択して解答すること。
3. 解答する問題は、自身の進学を希望する群から選択する必要はなく、自由に選択することができる。
4. 問題ごとに解答用紙を分けて解答すること。
5. 問題用紙および書き損じの解答用紙・未使用の解答用紙は持ち帰ってはならない。

第1問 (第1群)

世界の多くの国が採り入れている政教分離原則は、ほぼ、(1)信教の自由の保障、(2)宗教的中立性の確保、(3)宗教による政治支配の防止という目的を持っているといえる。現在の日本においては、国家および自治体が宗教に対して制度的に中立であることが憲法で定められている。いっぽう、世界諸国の政教分離のありかたはさまざまであり、日本のありかたは決して標準というわけではない。日本以外のいずれか一つの国における政教分離と日本のそれとを比較し、(1)、(2)、(3)にも触れながら、現在の日本の政教分離がもつ課題について、自分自身の考えを述べなさい。

第2問 (第1群)

次の文章を読み、著者が語る宗教の「脱社会活動」の考えを説明したうえで、宗教の「脱社会活動」と「社会貢献」とがどのような関係にあるのが望ましいと思われるかについて、自死対策以外の具体的な事例も挙げながら、自分自身の考えを述べなさい。

自死率の高い秋田県の中でもさらに自死率が高い藤里町にあって、2000年代初頭から自死予防に尽力している曹洞宗僧侶・袴田俊英は、自死対策での仏教の果たすべき役割について長年の経験をもとに次のように語った。

「自死対策の動きは進んでいるが、大変な人を救うということに傾きすぎている。追い込まれた人への対応はするが、なぜ追い込まれているのかというところには目を向けないし、考えようとしない。……しっかり生きなければいけないという圧力が非常に強くなり、規範から外れた人は生きづらくなって、逃げ場がない。みんな、自死を決行する直前まで普通の顔をして生きている。SOSも出せず、息抜きもできないままです。今一度、寺院はアジール*機能を担って、ちょっとした避難場所となるべきではないか。働かなくてもいいじゃないか、ちょっと人と変わっていてもいいじゃないか、と世間体を気にせず自由になれる場所です。」

苦しんでいる人に対応することも大事だが、自死を考えるまでに人を追い詰めている社会に異なる価値観を提示すること。そして、ほんの少し、世間から逃れるアジール……を提供すること。社会規範や人間関係に疲弊した人が心身を解放できるアジールが、空間としての寺院であり、思想としての仏教なのだ。

……自死対策における仏教の特色は、社会の価値観を相対化する視点を有することにある、ときには反社会性・暴力性すら含むのかもしれない。そんな僧侶の自死対策活動を形容するにあたって、筆者は「社会貢献」という言葉よりも、「“脱”社会活動」を用いたいと思う。

*アジール：世俗の権力などから逃れ、自治がおこなわれている避難空間のこと

第3問 (第2群)

新型コロナウイルス感染症の流行以後、救急外来・発熱外来への患者が増えるなか、AIを用いたトリアージ支援システム（具体的には、自動診断チャットボットと、緊急度・優先度の判定など）を導入する病院が増えつつある。そもそもトリアージとは一般的にどのような概念であるかを説明したうえで、この支援システムの有効性も考慮しつつ、このシステムによって生じうる倫理的課題について、自分の考えを述べなさい。

第4問 (第2群)

次の文章を読み、「肥満は避けるべき間違った生だ」とする態度への批判を踏まえつつ、国家や社会が健康増進の立場から人々の肥満の改善に「どのような方針」で「どの程度まで」介入するのが望ましいと思われるか、倫理学や政治学など諸学問の知見も交えて自分の考えを述べなさい。

肥満はあくまでも病気リスクであり病気ではないし、必ずしも苦痛をもたらすものではない（メタボリック・シンドロームも同様である）。しかし健康増進の立場から肥満を避けるべきだとする態度は、その生活が人間の生活として十全ではないことを示唆し、それゆえ人々の不安を煽るものでありうる。

実際のところ私たちは日々、肥満がいかに健康にとっての脅威であり、国にとっての損失であるかを知らされ、それゆえ社会には肥満である人に対する拒否感、場合によっては肥満に対する敵意さえもが沸き起こっている。このような社会全体における肥満の忌避によって、肥満状態にある人々は差別や偏見にさらされうる。……

社会学者のトビン・シーバースは、ある種の生活を「間違った生」と捉える考え方が現実がいかに迫害的なものであるかについて、次のように論じている。……「「間違った生」とは他の人よりも価値がない生であり、人間の尊厳を欠いた生であり、生きるに値しない生、ということだ。まるで障害をもった人たちの場合、死の方が生よりも好ましい、とでも言うかのように」。このような議論は肥満にも当てはまるだろう。すなわち、肥満を避けるべき「間違った」生き方だとみなすことは、そのような状態にある人の人生の否定、その尊厳の否定に結びつきうるということである。

第5問 (第3群)

現代社会では、傾聴が必要になる場面が少なからず存在する。傾聴に徹していたはずの側が、ときに自分の話もしてしまうことがある。傾聴と称して長々と自己開示をするのは論外であるが、控えめで適度な自己開示の効果を指摘する研究もある。自己開示の是非は単純ではなく、場面や状況、方法、量の寡多などについて、ていねいに論じる必要がある。

なんらかの特定の課題を抱える傾聴対象者の話を傾聴する場面を想定し、どのような課題かを、また傾聴者はどのような立場に関わるかを明確に定義したうえで、その場合の自己開示にともなう留意点について、自分の考えを述べなさい。

第6問 (第3群)

次の(A)と(B)との二つの文章を読み、あなたが高齢福祉課程を担当すると仮定して、刑法改正の趣旨や狙いを踏まえて、あなたが行う「指導」(授業)を企画しなさい。高齢福祉課程では、たとえば、認知機能の維持と改善が目指されている。他にどのような「指導」を行うかも明示した企画とすること。解答にあたっては、改正刑法の趣旨を踏まえ、(1)高齢福祉課程の対象者のニーズを想定し、(2)なぜそのような「指導」(授業)が有意義と思うか、(3)どのような材料を用いてどのような授業を行うか。以上(1)から(3)の項目を漏らさず、また(1)から(3)の記号を付して、説明しなさい。

出典：二階堂友紀「拘禁刑を導入、刑罰転換「懲らしめ」から「立ち直り」軸足懲役と禁錮は廃止」
朝日新聞、2025年6月2日